

高速道路における大型貨物自動車運転者の夜間運転行動等に関する調査研究(平成 10 年度)

高速道路においては、事故件数も 10 年前の約 1.8 倍に増加しており、死亡事故率が高く、中でも大型貨物自動車は、その傾向が顕著である。このような状況を背景として、高速道路における昼夜の走行実態を把握するとともに、運転者の走行に関する特性を明らかにした。

- ① 事故統計分析によると、大型貨物自動車は普通乗用車に比べ、台キロあたり人身事故、死亡重傷事故ともに少ない。死亡重傷事故では、普通乗用車の昼間割合が高いのに対し、大型貨物自動車は夜間割合が高い。大型貨物自動車は普通乗用車に比べ、人身事故に占める死亡重傷事故の割合が高く、特に高速道路では顕著である。
- ② 一般に車間距離は夜間の方が長くなる傾向があるが、高速道路を観測した結果、走行車線における大型貨物自動車は昼夜の差が小さかった。夜間に大型貨物自動車の速度が高くなる事実は見られず、大型貨物自動車が普通乗用車に対し車間距離を詰めるという傾向もなかった。
- ③ 大型貨物自動車運転者インタビューの対象事業者は、安全管理のレベルが高く、問題点はほとんどみられなかった。ただ、大型貨物自動車の特性上、普通自動車とは異なる動きをすることがあるなどの指摘があった。
- ④ サービスエリアでのアンケートによると、大型貨物自動車の運転者は普通乗用車の運転者に比べ、全体として労働時間が長い傾向が見られた。また、大型貨物自動車の運転者には 4 時間以上の連続運転をしている者も 10%以上存在した。大型貨物自動車の運転者は、他の運転者に比べ安全運転上の問題となるような性格上の特徴を示す者の割合が高かった。車間距離を詰めることの危険性を認識している者が多い一方、車間距離を詰めることがあるとする回答も多かった。
- ⑤ 大型貨物自動車による追従走行実験の結果、車間距離は夜間の方が長くなる傾向を示した(図)。車間距離の安定性、正確性は、動体視力、夜間視力との関係が見られ、その関係は夜間に強まることが示された。
- ⑥ 今後の課題として、回避能力や、積載量が多いときの制動能力を考慮して、大型貨物自動車の車間距離はどの程度が適当かも論じる必要がある。サービスエリアの整備による休息場所の確保や労働条件の改善が望まれ、行政の支援も必要である。運転者の健康管理、教育、また、一般の運転者への大型車の運動性能についての啓発も考えなければならない。
- ⑦ 反射材については、夜間視認性、車両誘導性の効果が確認された。

図 昼夜の車間距離の差 (距離指定:「通常」)

